

命の経験の第四段階へと入り、
完全に成長した人に到達して神の定められた御旨を完成する

(金曜日—午前第二の部)

メッセージ 5

命の経験の第四段階 (4)

霊的戦い

聖書：エペソ 6:10-20

- I. もしわたしたちが、召会がどのように神の戦士となり、霊的戦いに従事することができるかを知ろうとするなら、わたしたちは宇宙には三つの意志（神の意志、サタンの意志、人の意志）があることを知らなければなりません：
- A. 神のみこころ（意志）は、わたしたちがキリストのからだの実際とからだの一のために（エペソ 1:5, 9, 11. 4:3-4. ヨハネ 17:21）、からだの生活の中で機能することによって（ローマ 12:1-2. ピリピ 1:19）、キリストをすべてとして享受することです（ヘブル 10:5-10）。
 - B. ルシファーが自分の高い地位と美しさのゆえに高ぶったことは、邪悪な意図を引き起こし、それはサタンの意志となりました——エゼキエル 28:12-19. イザヤ 14:12-15。
 - C. すべての戦いは、この二つの意志の衝突にその源があります。サタンの意志が立ち上がって神の意志と衝突する前、宇宙に戦いはありませんでした。神の天使長であるルシファーの反逆は、今や国家の間で、社会で、家庭で、個人の内側で起こっているすべての戦いの始まりでした——参照、啓 12:3-11. ガラテヤ 5:17。
 - D. 命の木と善悪知識の木は、それぞれ神の意志とサタンの意志を表しています。極めて重要な問題は、人が神の意志を選ぶか、それともサタンの意志を選ぶかということです——創 2:7-9。
 - E. 悔い改めを通して、人はサタンの意志から神の意志へ立ち返り、サタンの側から神の側に立ち返ることができます——使徒 11:18。
 - F. 聖書は、わたしたちは王国のために悔い改めなければならないと言っています（マタイ 4:17）。神の王国とは実は、神の意志の行使です。罪人は神の王国のために悔い改めるとき、サタンの側から神の側へ、すなわち神の王国へ、神のみこころ（意志）へ立ち返ります。
- II. エペソ第 6 章 10 節から 20 節は啓示していますが、わたしたちは神の武具の構成要素としてのキリストによって、「からだの中で戦う」ことができます——詩歌 637 番：
- A. 「最後に、主の中で、また彼の力強い大能の中で力づけられなさい。神のすべての武具を身に着けなさい。悪魔の策略に敵対して立つことができますためです」——エペソ 6:10-11：
 - 1. わたしたちが主の中で力づけられる必要があるという事実は、わたしたちが自分の中では霊的戦いを戦うことができないことを示しています。わたしたちは主の中で、また彼の力強い大能の中でのみ戦うことができるのです。

2. 神のすべての武具は、団体の戦士としてのキリストのからだ全体のためであって、からだのどんな個々の肢体のためでもありません。わたしたちは、個人としてではなく、からだの中で、霊的戦いを戦わなければなりません—— 10-13 節. ヤコブ 4:7. 参照、ピリピ 1:19. ローマ 13:12-14. 16:20.
 3. エペソ第 2 章で、わたしたちはキリストと共に天上に座ります。第 4 章と第 5 章で、わたしたちは彼のからだの中で地上を歩きます。そして第 6 章で、わたしたちは彼の力の中で天上に立ちます。
 4. キリストと共に座るとは、彼が達成されたすべてにあずかることです。彼のからだの中で歩くとは、神の永遠の定められた御旨を完成することです。彼の力の中で立つとは、神の敵に対抗して戦うことです。
- B. 「ですから立ちなさい。真理を腰に帯として締め」—— 14 節前半：
1. この「真理」は、わたしたちの生活の中の実際としてのキリストにある神、すなわち、わたしたちの生活の中で、わたしたちによって実際化され経験された神のことを言います。これは実は、わたしたちによって生かし出されたキリストご自身です—— 4:15, 21, 24-25. ヨハネ 14:6.
 2. わたしたちが帯として締める真理は、実はわたしたちが経験するキリストです。パウロの生活はキリストの模範に同形化されていたので、パウロはすべての反対と逆境に立ち向かう力を持ちました——エペソ 4:20. ピリピ 1:19-21 前半。
- C. 「義の胸当てを身に着け」——エペソ 6:14 後半. I コリント 1:30. エレミヤ 23:6：
1. キリストは義の胸当てとして、胸で表徴されるわたしたちの良心を覆います。わたしたちを訴える者であるサタンとの戦いにおいて、わたしたちは血によってきよめられた良心、とがめのない良心を必要とします——ヘブル 9:14. 10:22. 使徒 24:16.
 2. 「兄弟たちは、小羊の血のゆえに、……彼に打ち勝った」(啓 12:11)。サタンの訴えに対するわたしたちの応答はこうあるべきです、「わたしが訴える者であるサタンに打ち勝つのは、わたしの完全さによってではなく、とがめのない良心によってでさえなく、小羊の血によってである。わたしは義の胸当てによって、彼の訴えから守られている」。
- D. 「平和の福音を確固とした土台として足にはきなさい」——エペソ 6:15：
1. キリストはわたしたちのために十字架上で、神との平和と人との平和をつくられました。そしてこの平和は、わたしたちの福音となりました。平和の福音は、確固とした土台として、わたしたちが足にはく備えとして、確立されました—— 2:13-17.
 2. わたしたちは平和の中で立つことによって霊的戦いを戦います。もしわたしたちがわたしたちと神の間の平和、あるいはわたしたちと他の信者たちの間の平和を失うなら、戦う立場を失います——コロサイ 3:15.
- E. 「なおその上に、信仰の盾を取りなさい。それによって、あなたがたはあの邪悪な者の燃える火の投げやりを、いっさい消すことができます」——エペソ 6:16. II コリント 4:13. ヘブル 12:2. 参照、ピリピ 2:13：
1. 燃える火の投げやりは、サタンの誘惑、提案、疑い、疑問、虚偽、攻撃です。わ

わたしたちは信仰の盾を取って、これらの燃える火の投げやりを消す必要があります。

2. わたしたちは信仰の霊を活用して、服従させられ復活した意志をもって、主の現れが悪魔のわざを破壊するためであることを信じる必要があります——Ⅱコリント 4:13. Ⅰヨハネ 3:8. マタイ 16:22-23. ルカ 4:39. マタイ 12:28. ルカ 10:17, 19。
3. わたしたちは信仰の霊を活用して、主の死がサタンを滅ぼしたことを信じる必要があります——ヘブル 2:14. Ⅰコリント 15:54-58. ガラテヤ 2:20. ローマ 6:3-6。
4. わたしたちは信仰の霊を活用して、主の復活がサタンを辱めたことを信じる必要があります——コロサイ 2:12-15, 20. 3:1. ヨハネ 14:30. ピリピ 3:10. イザヤ 61:10. ゼカリヤ 3:4-5。
5. わたしたちは信仰の霊を活用して、主の昇天がサタンの力よりもはるかに高いことを信じる必要があります——エペソ 1:19-23. 2:6. 6:11, 13。
6. わたしたちは神を信じなければなりません。神は真の、生ける、現在の、便利な方です——マルコ 11:22. 啓 1:18。
7. わたしたちは神の心を信じなければなりません。わたしたちに対する神の心は常に良いのです。神にはわたしたちを罰したり、傷つけたり、損失を被らせたりする意図はありません——ローマ 8:28-39。
8. わたしたちは神の信実を信じなければなりません。神は偽ることができず、常にご自分の言葉に対して信実です——Ⅰコリント 1:9. Ⅰヨハネ 1:9. テトス 1:2。
9. わたしたちは神の能力を信じなければなりません——エペソ 3:20。
10. わたしたちは神の言葉を信じなければなりません。神はご自分が語ったことをすべて成就しなければなりません——参照、Ⅰテサロニケ 5:24. エペソ 6:17-18。
11. わたしたちは神のみこころを信じなければなりません—— 1:5, 9, 11。
12. わたしたちは神の主権を信じなければなりません。神の主権の下で、わたしたちの失敗でさえ働いて益となります——ローマ 9:19-29。

F. 「救いのかぶとを受け取りなさい」——エペソ 6:17 前半：

1. 救いのかぶとは、あの邪悪な者によって投げ込まれた消極的な思想に対して、わたしたちの思い、知性を覆うためです。このようなかぶと、このようなおおいには神の救いです。
2. サタンはわたしたちの思いの中に、脅迫、思い煩い、心配、恐れ、人を弱くさせるその他の思想を注入します。神の救いは、これらすべてに抵抗してわたしたちが取るおおいです。そして、この救いは、わたしたちが日常生活の中で経験する救うキリストです——ヨハネ 16:33。

G. 「その霊の剣、すなわちその霊である神の言葉を、……受け取りなさい」——エペソ 6:17 後半-18 前半：

1. 神の武具の六つの項目の中で、その霊の剣だけが、敵を攻撃するために用いられるものです。わたしたちは剣をもって、敵を寸断します。
2. その霊また言葉としてのキリストは、敵を打ち破って殺すために、わたしたちに攻撃の武器としての剣を供給します。
3. 「ロゴス (logos)」（聖書の恒常的な言葉）が、わたしたちに「レーマ (rhema)」

(その霊の、現在の即時的な生ける語りかけ) となる時、この「レーマ」は敵を寸断する剣です。

H. 「すべての祈りと願い求めによって……どんな時にも霊の中で祈り、すべての聖徒のために根気と願い求めの限りを尽くし、このために目を覚ましていなさい」
—— 18 節 :

1. 祈りは、神の武具の七番目の項目と考えられます。なぜならそれは、わたしたちが他の項目を適用する手段であるからです。
2. 祈りは、神の武具としてのキリストを適用する唯一の道です。祈りは、わたしたちに武具を実用的なものとならせます。
3. わたしたちはうまずたゆまず(根気の限りを尽くして) 祈る必要があります。なぜなら、祈りは戦いと関係があるからです。神とサタンの二者が互いに敵対しています。第三者は、神の選ばれ贖われた民から成っています——コロサイ 4:2. エペソ 6:18. マタイ 26:41. 参照、エペソ 5:14. ローマ 13:11-14.
4. 神の側でサタンと戦うために、わたしたちはうまずたゆまず祈る必要があります。このようにうまずたゆまずいる必要があるのは、全世界の方向が神から遠く離れているからです—— I ヨハネ 5:19. 参照、ヨハネ 14:30. 16:33.
5. わたしたちはうまずたゆまず祈ろうとする前に、まず自分の祈りの生活について主に誓願を立てるべきです。わたしたちは彼にこのように言う必要があります、「主よ、わたしはこのことについて必死です。わたしは自分自身をあなたにささげて、祈りの生活を持ちます。主よ、わたしを祈りの霊の中に保ってください。もしわたしがこれを忘れて、無視したりしたとしても、あなたはそれを忘れないことをわたしは知っています。祈りについてわたしに何度も思い起こさせてください」。
6. うまずたゆまず祈ることには多くの益があります：
 - a. 祈りは、わたしたちが思いを上にあるものに置くことができる唯一の道です——コロサイ 3:2. ヘブル 7:25. 8:2. 参照、使徒 6:4.
 - b. 祈りとは、至聖所の中へと入り、恵みの御座に進み出るための道です。それはわたしたちがあわれみを受け、時機を得た助けとなる恵みを見いだすことができるためです(ヘブル 4:16)。わたしたちが祈って、恵みの御座に近づくとき、恵みは川となってわたしたちの中を流れ、わたしたちを供給します——詩歌 557 番。
 - c. わたしたちは祈れば祈るほど、主と一であることをますます経験し、ますます彼の臨在を享受し、ますます彼との交わりを持ちます。これは何というすばらしい褒賞でしょう！

務めからの抜粋：

霊的な敵を対処する戦い

召会の責任

1928 年にニー兄弟は、霊的戦いについて、第一回の勝利者の特別集会を開きました。その集会で、邪悪な者サタンが極みまで暴露されました。ニー兄弟は、宇宙には三つの意志があることを指摘しました。それは神の意志、サタンの意志、人の意志です。召会がど

のように神の戦士となり、靈的戦いに従事することができるかを知らうとするなら、わたしたちはこの三つの意志、この三つの意図を知らなければなりません。神の意志は、自ら存在し、永遠であり、非受造のものです。創造されたものとして、天使たちも意志を持っています。これらの天使の一人、天使長は、神によって任命されて、アダムの創造の前に存在していた宇宙を支配していました。彼の高い地位と彼の麗しさのゆえに、この天使長は高ぶるようになりました。この高ぶりは邪悪な意図をひき起こし、それはサタンの意志となりました。ですから、神の意図、神の意志に加えて、第二の意図、第二の意志があります。なぜなら、今やサタンの意志が、神の意志に敵対して起こされているからです。

すべての戦いは、この二つの意志の衝突にその源があります。サタンの意志が立ち上がって神の意志と衝突する前、宇宙に戦いはありませんでした。宇宙における論争は、神の天使長の反逆で始まりました。その反逆は、今や国家の間で、社会で、家庭で、個人の内側で起こっているすべての戦いの始まりでした。歴代、国家、集団、人民、個人の内側でさえ、戦いが続いています。例えば、あなたは自分の理性と情欲の間の内なる戦いを経験するでしょう。さまざまな種類の戦いはすべて、神の意志とサタンの意志の衝突にその源があります。

わたしたちは、サタンの反逆とアダムの創造の間に、どれほどの時間が経過したのかわかりません。ただ知っているのは、ある特定の時に神は人を創造し、人の意志を与えられたということです。それは自由な意志です。神が人に自由意志を与えられたのは、神の偉大さのゆえです。偉大な人物は、決してだれにも自分に従うよう強制しないでしょう。神は人に自由意志を与えることによって、ご自身に服従するよう人に強制していないことを示しておられました。わたしは若かったころ、神は自由意志を持つ人を創造したことで、賢明ではなかったと考えました。もしわたしが神であったなら、人が選択することを不可能にしたでしょう。わたしは、神に従うことしかできないように、人を創造したでしょう。しかし神は偉大であり、人に選択の自由を与えられました。

創世記第2章で、人は自分の意志を働かせて、命の木と善悪知識の木のどちらからでも食べる自由があったことを見ます。この二本の木は、それぞれ神の意志とサタンの意志を表しています。ですから、園には三角の局面がありました。それは、神の意志を表す命の木、サタンの意志を表す知識の木、人の意志を表すアダムです。実は、命の木は神ご自身を意味し、知識の木はサタンを意味します。ですから、それぞれ意志を持つ三つのパースン、神、サタン、人がありました。

三つの意志がありましたが、衝突は二つの当事者、神とサタンだけを含みました。極めて重要な問題は、人が神の意志を選ぶか、それともサタンの意志を選ぶかということでした。人の意志が神の意志と共に立つなら、神の意志は達成されたでしょう。しかし、もし人の意志がサタンの意志の側につくなら、少なくとも一時的に、サタンの意志が遂行されたでしょう。わたしたちがみな知っているように、人の意志はサタンの意志の側につきました。これは、人がサタンに従うことを選び、サタンの意志の側についたことを意味しません。ですから、サタンは一時的に勝ちました。

しかしながら、悔い改めを通して、人はサタンの意志から神の意志へ立ち返り、サタンの側から神の側に立ち返ることができます。福音での第一の命令は、悔い改めることです。次の二つの命令は、信じることとバプテスマされることです。救われることを願うどの罪

人も、この三つの命令に従わなければなりません。人は神に対して悔い改め、主イエスを信じ、水の中にバプテスマされなければなりません。悔い改めるとは、サタンの意志から神の意志に立ち返ることです。誕生してから、わたしたちの意志はサタンの意志の側に立っていました。これは、アダムが神の意志よりもサタンの意志を選んだ時、わたしたちがアダムの中にいたからです。

多くのクリスチャンは、福音を宣べ伝えることの真の意義を知りません。聖書は、わたしたちは王国のために悔い改めなければならないと言っています（マタイ 4:17）。神の王国とは実は、神の意志の行使です。罪人は神の王国のために悔い改めるとき、サタンの側から神の側へ、すなわち神の王国へ、神のみこころ（意志）へ立ち返ります。人はサタンの意志から神の意志へ立ち返った後、主イエスを信じ、バプテスマされなければなりません。バプテスマを通して、人は暗やみの権威、サタンの意志から連れ出されて、神の愛する御子の王国に移されます（コロサイ 1:13）。

救われた日から、わたしたちのクリスチャンの生活は戦いの生活でした。エジプトから脱出した後のイスラエルの子たちについても同じです。過越を食べた後、彼らはエジプトの地から軍隊のように行進しました。これは、彼らが過越の小羊を食べたことが、戦いの準備であったことを示します。彼らは戦いの雰囲気の中で救われました。エジプトを出ると直ちに、戦闘が始まりました。パロと彼の戦車はイスラエルの子たちを追撃しましたが、神が入って来て彼らのために戦われました。イスラエルの子たちが紅海を渡り終わり、パロの軍隊が水没した後、神の民は敵に対する神の勝利のゆえに、勝ちどきを上げて神を賛美しました。イスラエル人は前進し、荒野を通過して彼らの途上で戦い、良き地で戦い続けました。こうして彼らの歴史は、救われた者の生活が戦いの生活であることを啓示しています。

すでに見てきたように、新しい人としての召会は、実際にしたがって、恵みによって歩くべきであり、花嫁としての召会は、愛の中、また光の中で生きるべきです。しかしながら、神の永遠のご計画が成就され、キリストの願いが満たされなければならないだけでなく、神の敵が打ち破られなければなりません。このために、召会は戦士でなければなりません。雅歌でさえ、追い求める者が主の臨在を享受している時、戦いが進行しているのを見ます。ですから、わたしたちは実際にしたがって、恵みによって歩き、愛と光の中で生き、戦ってサタンの意志を征服します。わたしたちの歩みは神のご計画を成就するためであり、わたしたちの生活はキリストの満足のためであり、わたしたちの戦いは神の敵の敗北のためです。ですから、この三つの事のために、召会は新しい人、花嫁、戦士でなければなりません。

力づけられる

エペソ人への手紙第 6 章 10 節は、「最後に、主の中で、また彼の力強い大能の中で力づけられなさい」と言います。ここで力づけられると訳されたギリシャ語は、第 1 章 19 節の「力」と同じ語根です。神の敵を対処し、暗やみの邪悪な勢力に対抗して戦うために、わたしたちは、キリストを死人の中から復活させ、空中のすべての悪霊どもよりもはるかに高くされ、彼を天上でご自身の右に座らせた力の偉大さで、力づけられる必要があります。わたしたちが主の中で力づけられるべきであるという事実は、サタンと彼の邪悪な王

国に対抗する霊的戦いでは、わたしたちは自分の中ではなく、ただ主の中でのみ戦うことができることを示します。わたしたちは、自分の中にいる時はいつも敗北です。

力づけられなさいという命令は、わたしたちが自分の意志を強く働かせる必要があることを暗示しています。霊的戦いのために力づけられようとするなら、わたしたちの意志は強くあり、活用されなければなりません。わたしたちはくらげのように、意志が弱くてぐらついている者であってはなりません。実は、意志の強い人は、最も強く悔い改めることができる人です。タルソのサウロを例証として考えてみてください。彼は、主イエスの御名を呼び求めるすべての人を捕縛する目的で、ダマスコへ向かって旅をしていた時、主によって捕えられました。サウロはそのような強い意志を持っていたので、強い悔い改めをすることができたのです。

神は、わたしたちの良心を守られただけでなく、主権をもってわたしたちの意志も守られました。もし神がそうされなかったなら、福音の宣べ伝えは人々に対して何の効果もなかったでしょう。わたしたちは、強い意志の人に福音を宣べ伝えるのは難しいと、間違っていると考えます。わたしの経験によれば、わたしの福音の宣べ伝えを通し救われた人の大部分は、強い意志と明確な意図を持っている人でした。そのような意志は、悔い改めの時に積極的に機能することができます。悔い改めは意志の活用を要求します。同じように、力づけられることもわたしたちの意志と関係があります。

ペンテコステの日にペテロは人々に、「この曲がった世代から救われなさい」と告げました（使徒 2:40）。この命令は、能動的でありまた受動的であるように見えます。これには、「なさい」という能動的なことを暗示する言葉と、「救われ」という受動的なことを暗示する言葉があります。第 6 章 10 節の「力づけられなさい」というパウロの命令も同じです。能動的な要素「なさい」が、受動的な要素「力づけられ」と結合されています。わたしたちは自分の意志を活用して、主の中で力づけられる必要があります。

第 4 章では、新しくされなければならないこと（23 節）、第 5 章では、服従しなければならないことを見ます（21 節）。わたしたちは新しい人のために新しくされる必要があります、花嫁のためには服従する必要があります、戦士のためには力づけられる必要があります。戦士として、戦場に突入するのに、紳士であったり愛らしい花嫁であったりするのではなく、獅子のようであればなりません。ですから、新しい人、花嫁、戦士のために、新しくされ、服従し、力づけられましょう。

わたしたちが主の中で力づけられる必要があるという事実は、わたしたちが自分の中では霊的戦いを戦うことができないことを示しています。わたしたちは主の中で、彼の力強い大能の中ではじめて戦うことができるのです。第 6 章 10 節でパウロは、力、大能、力強いと言っています。まず、わたしたちは、キリストを死人の中から復活させ、彼を万物の上にかしらとならせた力によって力づけられます。その時、わたしたちは神の大能と力強さを知ります。

神のすべての武具を身に着ける

11 節は、「神のすべての武具を身に着けなさい」という言葉で始まります。霊的戦いを戦うには、主の力だけでなく、神の武具をも必要とします。わたしたちの武器は役に立ちません。神の武具、それも神のすべての武具こそ、役に立つのです。

神のすべての武具は、キリストのからだ全体のためであって、からだのどんな個々の肢体のためでもありません。召会は団体の戦士であり、信者たちはこの唯一の戦士の一部です。どの個人の信者でもなく、ただ団体の戦士だけが、神のすべての武具を着ることができます。わたしたちは、個人としてではなく、からだの中で、霊的戦いを戦わなければなりません。

神のすべての武具を身に着けるという命令は、避けられない命令です。神はわたしたちに武具を備えましたが、それをわたしたちに着けることはされません。むしろ、神が用意された武具を、わたしたち自身が身に着けなければならないのです。このために、わたしたちは力づけられる必要があります。神はわたしたちを力づけることができますが、わたしたちはなおも自分の意志を働かせて、彼と協力しなければなりません。同じ原則で、わたしたちは武具を身に着けるようにという神の命令に、協力しなければなりません。(エペソ人への手紙ライフスタディ、第 63 編)